

令和6年度 第2回コンソーシアム連携協議会の記録（抜粋）

協議1 共生社会コンファレンスについて

- 会場は、障がいのある人も利用しやすく、アクセスしやすい場所が良い。
- 昨年の会場は、県教育研修センターだったが、市の中心部から遠く、路線バスも少なく不便。
- 会場は、駅から近い場所が良い。
- 宮崎市役所隣のオルブライトホールや宮交シティだと、集客しやすく、アクセスも良い。
- 手話通訳だけではなく、字幕（要約筆記）があった方が良い。
- 昨年と同じように、会場だけでなく、オンライン参加ができるハイブリットで開催してほしい。
- イベントの趣旨やターゲットによって、著名な方を呼ぶと、集客が望める。
- 書家金澤翔子さんの母親や、水泳選手の池江璃花子さんの母親など、障がいがある人や病気からカムバックした人を支えた家族による講演も良いと思う。
- 情報を受け取るだけのイベントになりがちなので、1カ所でもいいので、参加型を入れて、コンファレンスの意義を深めてみてはどうか。
- ステージだけではなく、体験もできるようにすると良い。ダンスなど障がい者団体の発表などもあって良いのではないかと。障がいのある方々によるプロの太鼓集団もある。
- 団体紹介等で、県外の事例も紹介しても良いのではないかと。
- 団体紹介の趣旨と離れるが、障がいのある方々に、インタビューしてはどうか。
- シンポジウムは、昨年と同じように、学生や障がいのある方も登壇してほしい。
- 会場内また外に、事業所の販売ブースを設けても良いのではないかと。

協議2 各地区の取り組みについて

- 県立看護大学では、学生が身体障害、聴覚障害など、様々な障がい種について、当事者の方から直接、意見を聞く調査を行っている。企画委員全員で共有する場を設けて、実施内容を企画していく。また、他学の障がいのある学生に、同世代として話を聞くなどなどの調査を予定。コンソーシアム協議会委員が所属する団体にも出向く。
- 都城市は、防災対策体験教室の準備を進めている。放課後デイサービスや、特別支援学校などを中心に呼びかけている。ボランティアは、中学生や高校生、大学生、民生委員、地域のボランティアネットワークに依頼する。避難所体験や防災食の試食などを行う予定。
- 小林市は、フライングディスクの体験教室を行う予定。障害者スポーツ団体等に協力を要請する。
- 日向市は、まず中央公民館でやってみて、いずれは他の館にも広げたいというねらいがある。調理体験教室を開催し、包丁を使わない調理を体験してほしいと考えている。講座名は「いろいろ」で考えている。講座案内のチラシ等は、助言を生かして、文字を少なくし、イラストをつけたチラシを作成していきたい。また、定員を超えた場合は抽選する旨を、チラシに加えておきたい。
- 延岡市は、ボランティア募集を行う。コンソーシアム連携協議会委員も協力してほしい。今年度の講座案内はSNSを利用する。延岡市公式LINEとFacebookに記載する。昨年の参加者が、企画運営に関わるようになった。2次元コードからの申し込みが多いことがわかったので、今後も活用したい。